



2 イベント分類の設定

- [2 イベント分類について \(1 ページ\)](#)
- [2 イベント分類の設定 \(1 ページ\)](#)
- [例 : 2 イベント分類の設定 \(2 ページ\)](#)

2 イベント分類について

クラス4デバイスが検出されると、IOS は、CDP または LLDP のネゴシエーションを行うことなく 30W を割り当てます。これは、リンクがアップする前であっても、クラス4の電源デバイスは 30W を得ることを意味します。

また、ハードウェアレベルで、PSE は2 イベント分類を行い、これにより、クラス4 PD はハードウェアから 30W を供給する PSE の能力を検出し、それ自体を登録することができます。また、CDP/LLDP パケット交換を待つことなく最大 PoE+ レベルまで移動できます。

2 イベントがポートで有効になったら、ポートの遮断または開放を手動で行うか、または PD を再度接続して IEEE 検出を再度開始する必要があります。2 イベント分類がポートで有効になっている場合、クラス4デバイスの電力バジェット割り当ては 30W です。その他の場合は 15.4W です。

2 イベント分類の設定

2 イベント分類についてスイッチを設定するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface *interface-id***
4. **power inline port 2-event**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： スイッチ> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： スイッチ# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface interface-id 例： スイッチ(config)# interface gigabitethernet2/0/1	設定する物理ポートを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	power inline port 2-event 例： スイッチ(config-if)# power inline port 2-event	スイッチで 2 イベント分類を設定します。
ステップ 5	end 例： スイッチ(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

例：2 イベント分類の設定

次に、2 イベント分類を設定する例を示します。

```

スイッチ> enable
スイッチ# configure terminal
スイッチ(config)# interface gigabitethernet2/0/1
スイッチ(config-if)# power inline port 2-event
スイッチ(config-if)# end

```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。